

冬春キャベツの菌核病が発病に適する条件となってきました

1. 対象作物： 冬春キャベツ（その他の野菜類）

2. 対象病害虫名： 菌核病

Sclerotinia sclerotiorum (Libert) de Bary

3. 発病条件と今後の予測

本病の発病適温は15～20℃とされ、10℃前後でも適度な土壌水分があれば発病するとされています。



図1 菌核が形成されたキャベツの発病株
(2019年12月 病害虫防除所撮影)

名古屋地方気象台発表の東海地方の1か月予報（10月29日）によると、向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並の予想です。

津での11月上中旬の気温の平年値は、最高気温18.8～16.7℃、最低気温10.9～9.0℃となっており、菌核病の発生に適する条件であると考えられます。

本菌は、前年の被害株で形成された菌核が土壌中に脱落して残存し、当年の11月頃からその菌核が第一次伝染源となり、好適条件により子のう盤が形成され、子のう胞子が飛散することで次第に発病が拡大します。

特に昨年に多発したほ場や連作ほ場においては、発生に注意する必要があります。

4. 防除対策

- (1) 発病してからの農薬散布では防除効果が低いので、特に前年多発したほ場では予防的に防除を実施してください。
- (2) 本菌は、放置するなどで病勢が進むと菌核を形成し、土壌中に残存して翌年以降の伝染源となります。発病を発見次第、早急に抜き取り、被害部位を含む残渣はほ場から出し適切に処分してください。
- (3) ほ場の排水を良くし、過湿状態にならないように努めてください。
- (4) 防除薬剤は三重県農薬情報システム (<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/mie>) で検索することができます。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。